

令和2年度 小金井市障害者福祉センター 事業報告

1 総 括

2020年度は、新型コロナ下でのスタートとなり感染症対策とともに安全対策のための取り組みに翻弄された1年でした。利用者の楽しみにしていた日帰り旅行などの中止や密を避ける取り組みを行ってきました。その中でも創意工夫をして楽しんでもらえるよう、事業所内でのブドウ狩りや少人数でのドライブなどを行いました。

2 中長期計画の取組結果

利用者の高齢化や重度化に対応した取り組みの研修等を行う予定でしたが、十分な研修計画を立て実施することができませんでした。高齢の知的障害者の支援や強度行動障害についての研修を実施してはいますが、関係機関との情報共有については、小金井市との情報共有に限られてしまいました。

一体感のある組織運営を目指しましたが、主任以上での共有は、重点項目の取り組み等の進捗などを通して実施できましたが、職員全体に関しては、事業計画の説明等を実施して共有を図りましたが、十分に浸透するまでには至りませんでした。

3 重点目標の取り組みと来期の課題

1) 提供するサービス

【目標】

個別支援計画が確実に実行できるように、従来の個別支援計画作成プロセスに加え、前年度作成したニーズ把握シートや支援計画進捗表の活用や進捗表をチェックする仕組みを新たに設け、個別支援計画の実行プロセスを再構築します。また、リーダーが計画作成に積極的に関わる機会や支援員全体が計画を共有する機会を作ることで、個別支援計画を日々の支援に活かしより良いサービスの提供につなげていきます。

【取り組み】

- ・ ニーズ把握シートの使用方法についてご利用者の支援計画を変更する際の会議の中で使用しました。
- ・ 支援計画進捗表についてはフォーマットを新たにし、毎月第2火曜日の支援員会議を支援計画に対する「前月の支援結果」と「翌月の支援内容」を記入し、確認とフィードバックを主任が行いました。
- ・ 個別支援計画の実行プロセスは、年間スケジュールを作成し配布しました。
- ・ 支援計画を共有は、グループリーダーが朝夕のミーティングで報告しました。

【取り組みの結果】

- ・ 支援計画の進捗管理の流れが出来上がりました。
- ・ 支援計画は、グループリーダーの報告で共有を図りましたが、十分に周知をするには至りませんでした。

【目標】

ご利用者の作品の取り扱いについて統一した見解や販売へのプロセスを整備します。また、館内の展示会や地域イベント参加の機会を増やし、販売はもちろん多くの人に知ってもらう機会を作ります。商品開発チーム（物販係）が中心になり、商品の開発を行っていきます。

【取り組み】

- ・ご利用者の作品の取り扱いについてのアンケートをご家族に配布し、ご利用者ごとに作品の取り扱い方法を整備しました。
- ・作品展示は、9月に館内展示会、12月の障害者週間で行いました。
- ・支援員を絵画班と物販班に分けて新商品の開発や作品作りを行いました。また、月に一度の定例会を設けて進捗管理を行いました。

【取り組みの結果】

- ・作品展示は、ロビーが明るくなるような展示を実施できました。
- ・物品販売も努力していますが、成果を上げるには時間がかかりそうです。

2) 人材育成**【目標】**

- ・各職種の業務分掌の見直しを法人と連携して進めていき、法人や地域における福祉人材としての役割と次世代を担える職員育成を目指していきます。そのために、昨年より実施している個別目標計画・評価シートや方法の見直しを行い、評価が自覚できる、より組織的な取り組みとなるよう努めていきます。
- ・理念、事業計画の周知を管理職、主任が徹底して行い、方向性、目標の共通認識が全員で持てるようにします。

【取り組み】

- ・業務分掌は、職務内容の見直しに取り組みました。
- ・個別目標計画・評価シートは、書式の作成するに留まりました。
- ・全職員を対象にした理念・事業計画の説明会を行いました。

【取り組みの結果】

- ・職務分掌の見直した内容の周知にまでは、至っていません。次の課題となります。
- ・前期、後期の目標を確認し、自らの取り組みとして自覚するまでには至っていませんが、少しずつ積み重ねられてきています。
- ・事業計画の説明会を実施して、共通認識までは至っていませんが、方向性を示して全体で取り組むステップを踏みました。

3) 地域連携**【目標】**

- ・常に地域に開かれた市民サービスが展開されることを念頭に置き、センターPRとしてパンフレットの改良や法人内、市内外事業所、また地域住民など幅広くご利用者、職員が関わり合うことでの更なる市民サービスの充実化を目指していきます。
- ・高齢者 GH ご利用者との活動交流や講演会実施、物販活動によるイベント交流の継続、地域性や支援に関する情報交換、活動活性化、新たな地域ニーズの把握へと努めていきます。

【取り組み】

<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの改良は行いましたが、地域に開かれた施設としての活動は、新型コロナの影響で行うことができませんでした。
【取り組みの結果】 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で活動の想定ができませんでした。今後の活動をどのようにしていくかの課題が残りました。

4) 財政の健全化

【目標】 <ul style="list-style-type: none"> 5年間の決められた額の指定管理料を有効に活用するため、支出の見直しを行い経費削減に努めます。 利用者の希望や保護者からの要望を運営に取り入れ、魅力ある事業所を目指します。
【取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染症対策で、保健衛生費支出が増えました。 修繕は、優先順位をつけて実施しました。
【取り組みの結果】 <ul style="list-style-type: none"> 活動の縮小により、収支的には削減されていますが、本来の活動とコロナ対応で混乱したものとなってしまいました。 活動スペースの確保のため施設改修をおこないました。車いすでも利用できるスペースの確保とトイレの改修を行いました。

5) その他

【目標】 <p>キャプションシート（気づきシート）から環境改善の目標シートを作成し、実行と振り返りを行い、PDCA的に回して環境改善していきます。変化が見えることで、利用者のストレスの軽減、家族、職員の満足度向上をはかります。</p>
【取り組み】 <p>環境改善シートアンケートの実施時期と利用方法、改善のための具体的な手順を担当者会議で決めました。結果の張り出しも行いました。</p>
【取り組みの結果】 <p>職員に当事者意識を持ってもらうことが目標でしたが、そこまでの達成はできませんでした。</p>

4 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
4月9日	給食の食数連絡の対応が不快だった。	この日対応した職員に苦情の内容を伝えて注意するよう促す。
6月5日	送迎時の時間連絡や職員の態度への苦情。	当人から対応状況を聞き取り、連絡について正しいやり方を確認する。また、態度について改善するよう指導する。
9月2日	入浴車のリフトの隙間が空いています。	乗車して確認する。段差でその状況が見られた。また、運転に丁寧さがないときがあるという状況

		も確認されたため、運転手に注意を促す。但し、車の機構上、隙間が起ころことは改善できないことを自動車会社に確認する。
9月29日	送迎の2便制についていつまで続くのか	送迎時の密にならない対応のため、必要性があると考えている。
10月20日	送迎の2便制がいつまで続くのか	現状では元に戻すことは考えていない。日中一時の利用を伝える。課題としては検討する。
10月27日	送迎の2便制で帰宅が早くなり困っている。金曜日だけでも後半の送りにならないか。	課題としては認識している。今後の方針を内部で検討したい。
11月2日	電話をした際に、電話に出る女性職員の対応がつかいんどんで不快になる	謝罪し、上司から対応への指導を行う。
11月13日	利用者が家の前で大きな声を出してうるさい。	すぐ謝罪に行く。家族送迎の利用者なので事情を説明し、玄関先まで送迎してもらう対応に変える。普段も家の近くで声を出していても職員が注意をしていないというご注意だったので、改めて職員に注意を促す。
12月7日	緊急一時の利用で、医療的ケアを必要としている人にも対応できる体制を整えてほしい。	日中一時では医療的ケアの方もお受けしているが、宿泊を伴う対応は、看護師確保の点で対応が難しい。体制の整った療護園等の利用をお願いしたい。
2月24日	送迎の仕方が変わり、待ち時間ができている。そのまま乗車できるようにしてほしい。	白バイからの注意を受けたため、バスの停車時間を短くするようしていた。変更は、センターで決定するので、相談するよう注意をする。
3月18日	緊急一時の利用者で、学校から上履きを変えてほしいと要望があり、その対応で勝手に上履きを購入された。	その場で謝罪し、後日購入代金を返金する。ヘルパーは、勝手な判断をしないよう注意する。

5 発生した事故の内容

種別	件数	摘 要
重大事故	1件	転倒関連1件（転倒骨折） 散歩時に転倒、様子を見ることにしたが、翌日腫れがひどくなり受診する。手首の骨折をしていた。東京都と小金井市に事故報告を提出する。手首に関しては、ギブス等はせずそのまま付くのを待つ。

6 職員体制（令和3年3月31日）

職種	管 理	事 務	サ ビ 管	相 談 員	支 援 員	看 護 師	介 助 員	療 法 士	栄 養 士	調 理	医 師	そ の 他	合 計
職員数	2	2	2	3	14	3	6	5	1	2	3	8	51
内常勤	2	1	2	3	6	2			1				17
常勤換算	2	1.9	2	3	13.2	2.3	1.5	2	1	1.4	0.3	2.4	33.0

7 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修テーマ	内容	講師	参加職種	延人員
風通しのいい職場づくり	法人研修の伝達 研修	管理者	全職員	45名
支援に関する基礎研修	支援についての基 礎を学ぶ	本間隆宏	支援員	10名

2) 施設外研修

研修名	主催	参加職種	人員
高齢の知的障害者の支援	都通研	支援員	2名
風通しの良い職場づくり	法人	管理者	3名
今日からできるメンタルヘルスケア	IMF 株式会社	看護師	2名
感染症対策オンライン研修	国立感染症研究センター	看護師	2名
地域生活拠点研修（精神医 療的ケア・強度行動障害）	そら：赤濱施設長他2名 正夢の会：堀内氏 グランドライフ：代表田村氏	支援員、看護師	10名

8 行事の実施状況

実施月日	行事名	実施場所	参加者			
			利用者	職員	その他	計
9月3日	ブドウ狩り	社会適応訓練室	38	30		68
10月30日	焼き芋	ベランダ	18	11		29
11月11日	フードフェス	作業室	33	24		57
12月22日	クリスマス会	作業室	33	20		53
2月3日	節分	作業室	33	18		51